

No. 1249

1977年、にっぽん

資源有限時代を迎え、200カイリ元年といわれた1977年。四方を海に囲まれた日本は、海からの強いしめつけを受けた。3月、ソ連の200カイリ宣言で、北方海域での漁獲量は大幅な削減、日本の漁船は1000船以上減つた。事態を重視した日本政府は全野党をふくも党主会談をもった。重大な外交交渉をめぐって与野党党主が一堂に会し、全党一致の方向づけが行なわれたことは、戦後政治の中でも例のない事だった北方四島の領土問題も複雑にからみ、日ソ、ソ日両漁業協定は一年延長されたものの、まだ真の解決をみせていない。

深刻な不況、物価高に対し、主婦たちは産地直送で少しでも安くしようと精いっぱい対策。だが暮らしは楽にならず、質屋さんの繁盛に生活苦の傾向を見る。こんな世相を知ってか、知らずか、子供たちの間ではスーパーカーが大流行。カメラを持った子供たちがスーパーカーを追いまくり、道路では、とうとうおまわりさんまで出る仕末だ。

規格にはまった大人に理解出来ない現代の若者たち。ナンセンス、パロディーがパカ受けた。

こちらはたまじめ、自分たちの排せつ物から出るガスを利用して資源の節約。要は頭の使い方のようだ。

人間の力を越えた自然の力、北海道では有珠山が噴火、家屋や農作物の被害は200億を越えた。

人間の努力の偉大さを示した王選手。ホームラン世界新記録に日本中があたたかい拍手を送った。

今年のドラフトを一人じめした法政の江川投手。クラウンに指名され、入団を拒否、その態度に世論は二分した。

またも起った日航ハイジャック事件、奥平純三ら6人を出獄させた日本政府は強行策をとった西ドイツと比較され非難された翌年3月30日開港を決めた新東京国際空港。だが空港周辺では依然農民らの激しい抵抗が続く。ロッキードにあけくれた去年前首相田中角栄らの公判が1月早々から始まった。そしてロッキード事件の黒幕、兎玉誉士夫もついにその姿を国民の前にあらわした。新しい政治家、新しい政治集団が生まれ、今、日本の政治は大きく変ろうとしている。飛鳥田氏が社会党の、佐々木氏が民社党の新しいリーダーとなった。

円高、ドル安で大きく揺れる世界経済。

不妊宣言をしたパンダは来年に期待するという。

内・外に難問が山積する日本。来年、国民は何が期待できるだろうか。